取扱説明書・注意書

日立 温風 クリアヒーター

〈密閉式石油ストーブ〉

KH-G40・KH-G50形

このたびは、日立温風クリアヒーターをお買い上げいただき、ありがとうございました。
この「取扱説明書・注意書」をよくお読みになり、ご家族全員で正しくご使用ください。
なお、お読みになったあとは「保証書」「ご相談窓口一覧表」とともに大切に保存してください。

目　次

HITACHI

お客様メモ…後日のために記入しておいてください。サービスを依頼されるときお役にたちます。

ご購入年月日	平成　　年　　月　　日
購入店名	電話（　　－　　）

ご使用方法のご相談は、お買い求めの販売店が承っておりますが、販売店と連絡が取れないなどお困りの場合は、下記へお気軽にお問い合わせください。

★日立エコーくらしのダイヤル──家電品のお買物相談は…
0120-312111
(フリーダイヤル・無料　年中無休9～20時　東京で受信)

日立家電販売株式会社
〒105 東京都港区西新橋2丁目15番12号　電話(03)502－2111番

日立冷熱株式会社
〒101 東京都千代田区神田須田町1-23-2　電話(03)255－7201番
(大木須田町ビル)

株式会社 日立ホームテック
〒105 東京都港区西新橋2丁目15番12号　電話(03)502－2111番

NB24462-A 03J(M)

外観図
ランプ表示部
3～4ページをお読みください
タンクふた
給油タンク
とって
キャビネット
操作部ふた
中に操作部があります
のぞき窓
温風吹出口
水平器
定油面器
内部にあります
置台
定油面器セットレバー
対震自動消火装置
内部にあります
本体固定金具取付け口
3ケ所あります
背面カバー
(付属品)
ルームサーモ感熱部
ICセンサー
対流用送風機
温風ファン
排気管
給排気筒
排気管外れ検知リードセン
給気ホース
送油ホース接続口
(別設油タンク使用時)
電源プラグ
操作部
操作部ふたを開けると内部に操作部があります。
操作のしかたについて詳しくは「使用方法」の8～13ページをご覧ください。
切ボタン
消火するとき押します。
(押すと「ピッ」と音がします)
運転ボタン
点火(運転)するとき押します。
(押すと「ピッ」と音がします)
セーブセレクトボタン(押すと「ピッ」と音がします)
●「運転ボタン」を押してから操作してください。(このボタンを押しただけでは受付けません。)
●「おさえめ」と「ゆるやか」運転は、一度セットすると、停電などで電源が切れないかぎり記憶されていますが、「ミニ暖運転」は消火するたびにセットは解除されます。
●セットの解除はもう一度ボタンを押します。
おさえめボタン
ボタンを押しますと自動消火↔自動点火の制御をして室温を調節し、ムダな暖房をおさえます。
(9ページ参照)
ゆるやかボタン
ボタンを押しますと最大燃焼を自動的に絞り、寒暖差の少ない暖房が得られます。
(9ページ参照)
ミニ暖ボタン
ボタンを押しますと室温、設定室温に関係なく微燃焼、微温風で運転します。
(9ページ参照)
おやすみタイマー
セーブセレクト
おさえめ
ゆるやか
ミニ暖
時間調節
時刻合わせ
タイマー合わせ
時計/室温
切
運転
おはようタイマー
室温調節
下げ
上げ
時
分
おやすみタイマーボタン
夜おやすみになるときなど、自動的に運転を停止させたいときに押します。
押すと1時間後に自動消火します。
(押すと「ピッ」と音がします)
おはようタイマーボタン
朝など自動的に運転させたいときに押します。
(セットした時刻には暖かくなります。)
(押すと「ピッ」と音がします)
室温調節ボタン (押すと「ピッ」と音がします)
設定室温(希望の室温)をセットするとき押します。
「上げ」ボタン……室温を上げたいとき押します。
「下げ」ボタン……室温を下げたいとき押します。
(設定室温は8℃～32℃の範囲がセットできます。)
時刻切替えスイッチ
時ボタン
分ボタン
「現在時刻」をセットするときと、「タイマー運転時刻」をセットしたり、セットしなおすときに操作します。
(11ページ参照)
通常は「時刻切替えスイッチ」を「時計/室温」の位置にしておきます。
(時・分ボタンを押すと「ピッ」と音がします。)

ランプ表示部の見かた

運転ランプ

点灯…運転中です。

- ●おさえめ運転中は火が消えても点灯しています。

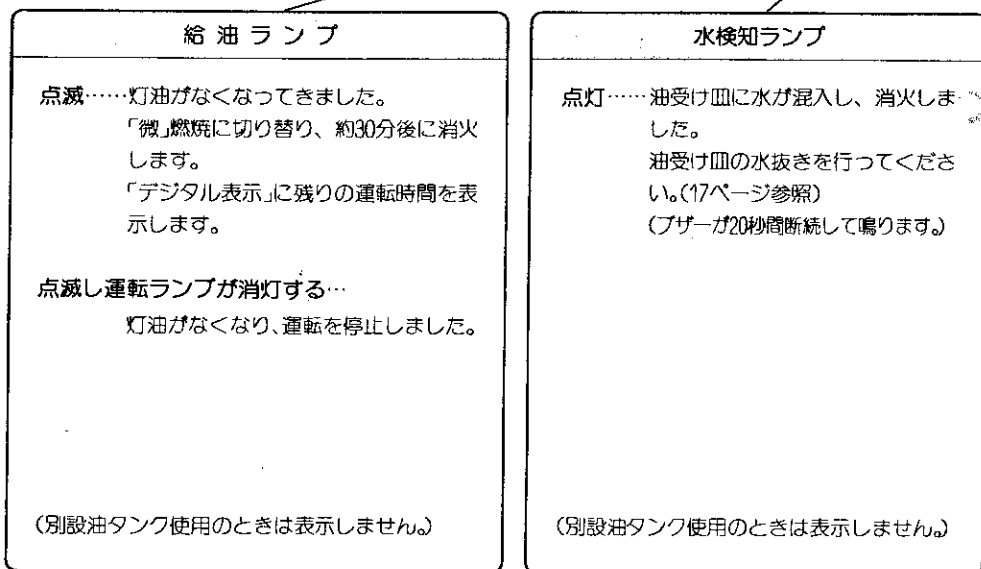
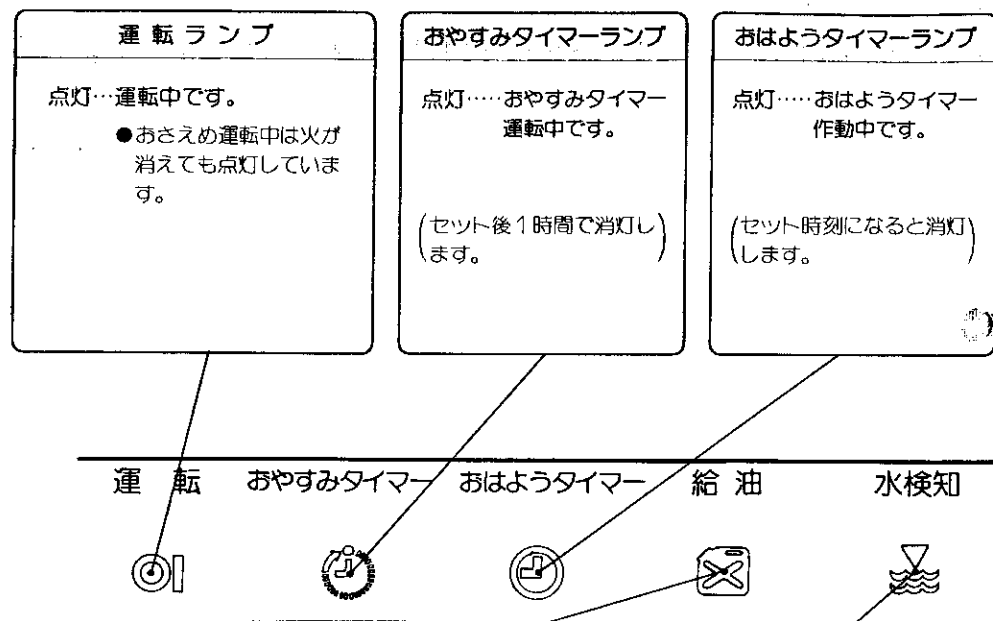
おやすみタイマーランプ

点灯……おやすみタイマー運転中です。

（セット後1時間で消灯します。）

おはようタイマーランプ

点灯……おはようタイマー作動中です。

（セット時刻になると消灯します。）

セーブセレクトランプ

セーブセレクトの各ボタンでセットされた運転システムを表示します。

- 全ランプ消灯……セーブセレクト運転はセットされていません。
- 「おさえめ」ランプ点灯……おさえめ運転をします。
- 「ゆるやか」ランプ点灯……ゆるやか運転をします。
- 「ミニ暖」ランプ点灯……ミニ暖運転をします。
- 「おさえめ」「ゆるやか」ランプ点灯……おさえめ、ゆるやかの組合わせ運転をします。

給油ランプ

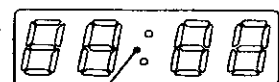
点滅……灯油がなくなってきました。
「微」燃焼に切り替り、約30分後に消火します。
「デジタル表示」に残りの運転時間を表示します。

点滅し運転ランプが消灯する…
灯油がなくなり、運転を停止しました。

（別設油タンク使用のときは表示しません。）

水検知ランプ

点灯……油受け皿に水が混入し、消火しました。
油受け皿の水抜きを行ってください。（17ページ参照）
（ブザーが20秒間断続して鳴ります。）

（別設油タンク使用のときは表示しません。）

デジタル表示（①〜⑥の異なった機能を数値で表示します。）

①運転中は設定室温（セットした希望の室温）と現在の室温を表示します。

20　10　設定室温：20℃　現在室温：10℃

②停止時は現在の時刻を表示します。

3:30　午後3時30分

③おはようタイマーボタンを押すと5秒間ほどおはようタイマーセット時刻を表示します。

6:20　午前6時20分

その後は現在の時刻を表示します。

④給油ランプが点滅をはじめると、油切れ消火までの残り時間を表示します。

:20　残り時間20分

⑤安全装置が異常を検知して消火したとき、1、2、5の数値を表示します。

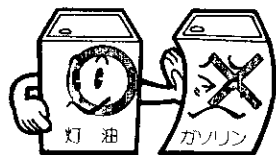
2　感震器、過熱防止サーモが作動しました。（21ページ参照）

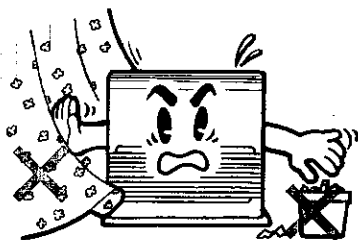
⑥器具が故障したとき運転ボタンを押すと、Eと数値（エラー）を表示します。

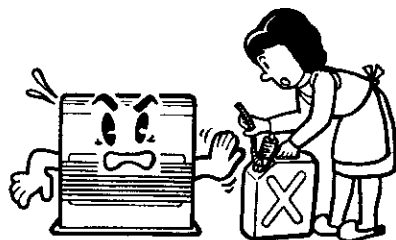
E 01　故障個所を表示しています。

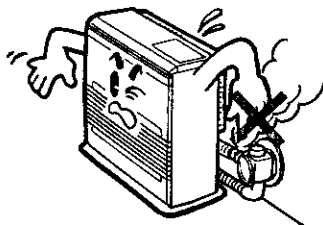
（修理依頼するときにお知らせください。）

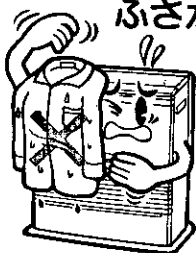
特に注意していただきたいこと

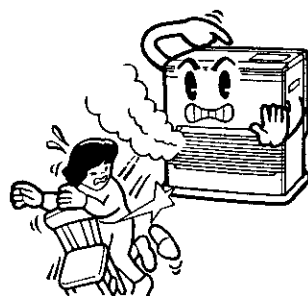
● ガソリン厳禁

灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

● カーテン・可燃物注意

カーテンや燃えやすいもの(障子やふすま)のそばなどでは使用しないでください。

● 給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
＊燃焼中の給油は危険です。

● 外れ危険

給排気筒(管、ホース)が正しく接続されているか確認してください。
＊外れていると、運転中に排気ガスが室内に漏れ大変危険です。

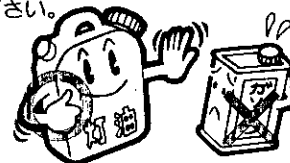
● 温風吹出口をふさがないで

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
＊衣類や紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。

● 異常時あわてず消火

万一異常を感じたり、緊急の場合はあわてずに消火してください。

使用方法

使用燃料

1 使用燃料

灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。

●変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。故障の原因になります。

2 変質灯油・不純灯油の注意

変質灯油とは

●古い灯油(ひと夏持ち越した灯油)。
●長期間日当りの良い場所、温度の高い場所に保管した灯油。
●容器のふたがあけてあったり、白いポリ容器で保管していた灯油。
ひどく変質した灯油は、うす黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。

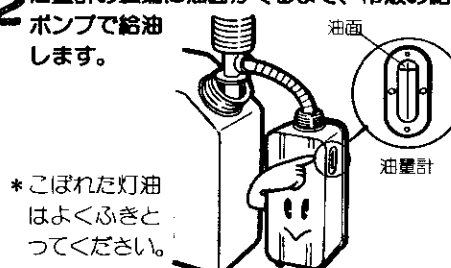
不純灯油とは

●灯油以外の油(ガソリン・軽油・食用油など)がほんの少しでも混入した灯油。
●水やごみが混入した灯油。
●灯油添加剤、燃焼促進剤などを添加した灯油。

給油 必ず消火してから行ってください。

1 給油タンクを取り出し、給油口口金を外します。

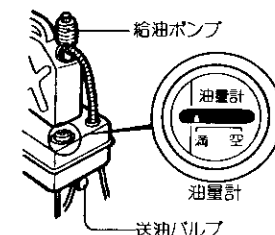
キャップオープナーを用いますと、手を汚さずに給油口口金の開閉ができます。

2 油量計の上端に油面がくるまで、市販の給油ポンプで給油します。

＊こぼれた灯油はよくふきとってください。

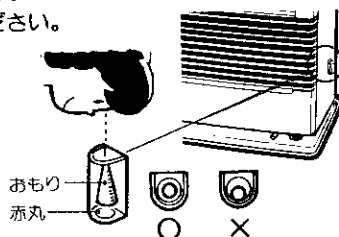
3 給油口口金をしっかりしめ、逆さにして油がもれないことを確かめてから本体にセットします。

＊他のストーブの口金を使用しないでください。灯油が漏れます。
＊キャップオープナーは紛失しないよう、器体のそばか給油する場所の近くに保管してください。

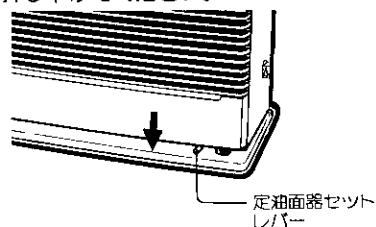
■別設油タンクを使用のときは

①燃料は必ず灯油(JIS1号灯油)をお使いください。
②油タンクの給油口ふたを外し、油量計の指針が「満」位置になるまで給油します。
●「満」以上は入れないでください。
③給油口ふたをしっかりとしめ、送油バルブを開きます。
●燃料切れに注意してください。

点火前の準備と確認

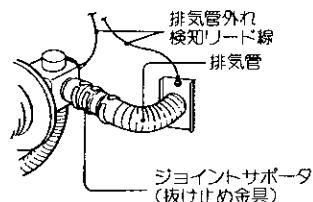
1 水平の確認

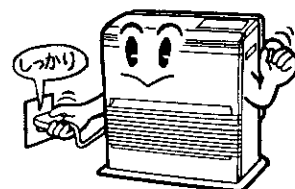
右側面にある水平器を真上から見て、おもりが赤丸印内にあることを確かめてください。

＊ストーブが傾いていますと、点火しないことがあります。

2 定油面器のセット

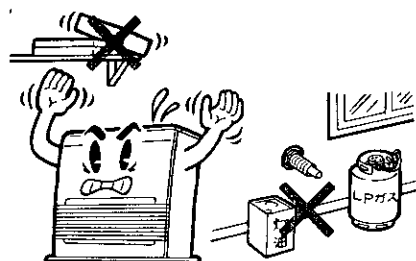
正面右下にあるセットレバーを2～3回押し下げてください。

＊この操作を忘れますと、油が流れず、点火しません

3 排気管接続部の確認

給排気筒と確実に接続され、ジョイントサポータ(抜け止め金具)で正しく固定されているか、また、排気管外れ検知リード線が確実に接続されているか確認してください。

4 電源との接続

電源プラグを、コンセント（一般家庭用100V）にしっかり差し込んでください。

＊電源プラグの抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。

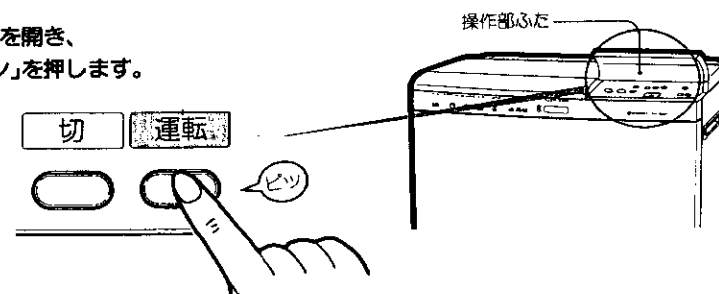
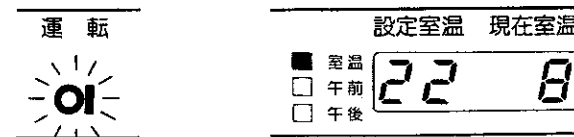
5 ストーブ周辺の確認

ストーブの周辺や屋外の給排気筒先端部の近く等に、燃えやすいものや危険物が置かれていないか、確かめてください。

6 油もれの確認

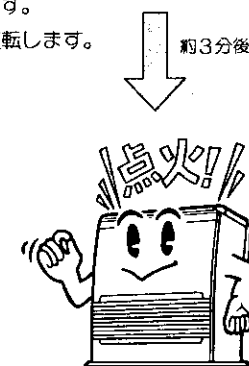
ストーブの下(置台の上)、油タンク、送油ホースやその接続部等に、油もれや油だまりがないか確かめてください。

点火(通常運転)

初めてお使いになるときは、油が定油面器内に入るまで5分ほどお待ちください。

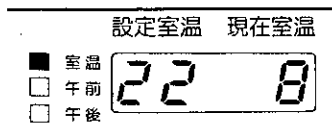
1 操作部ふたを開き、「運転ボタン」を押します。

「運転ランプ」が点灯し、「設定室温」「現在室温」が表示されます。

●設定室温は、あらかじめ22℃にセットしてあります。
●燃焼用送風機は、「運転ボタン」を押すと同時に運転します。

2 約3分後に点火します。

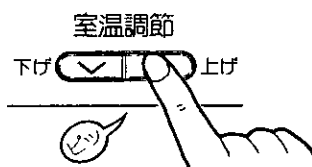
●点火後約2分たちますと、「温風ファン」が回り、温風が出ます。
●点火後の電磁ポンプの「コトコト」音は、しばらくすると消えます。

ご注意

●正しい点火操作を行っても点火せず、デジタル表示に「 / 」が表示されているときは、点火ヒータの故障等が考えられます。
切ボタンを押し、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。
●点火後、しばらくして自然に消火し、デジタル表示に「 5 」が表示されているときは、定油面器に油が流入していないことが考えられます。
切ボタンを押し、定油面器をセットしなおしてください。(7ページ参照)

室温の調節

このストーブは、設定室温が22℃になるようあらかじめセットしてあります。運転ボタンを押すだけで使用できます。

●ルームサーモの働きで、「強」から「微」燃焼をくり返して室温を調節します。

設定室温を変えるときは

「デジタル表示」の「設定室温」を見ながら「上げボタン」または「下げボタン」を押し、お好みの室温にセットします。

室温は8℃から32℃の範囲がセットできます。
「現在室温」は5℃から36℃の範囲が表示されます。

●現在室温は部屋の温度の目安です。温度計とは一致しないことがあります。
●上げ・下げボタンを交互に連続して押すと、消火することがあります。

「設定室温」は、一度セットすれば記憶しています。
電源プラグを抜いたり、停電した場合は、22℃に再セットされます。

セーブセレクト運転

●おさえめ運転

春先など外気温が高いときや小さな部屋でお使いのときは、「微」燃焼でも「設定室温」より上がることがあります。
このときは「おさえめボタン」を押してください。
「設定室温」より約3℃上がると自動消火し、「設定室温」まで下がると自動点火する「おさえめ運転」をして、室温の上がりすぎをおさえます。

●「消火」の制御が加わるため、点火・消火の際に少し外に臭気が出ます。
ご近所に迷惑がかかるときは「おさえめ運転」はおやめください。

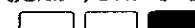
(現在室温が設定室温より高いときは「運転ボタン」を押しても点火しません。(運転ランプは点灯する)
室温が下がれば自動的に点火します。)

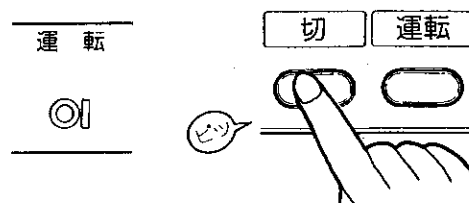
●ゆるやか運転

小さめの部屋などでご使用の場合に「おさえめ運転」を行ったとき、点火・消火が多く行なわれて室温の変動(寒暖差)が大きくなったり、通常運転でも一時的に熱すぎることがあります。
このようなときは「ゆるやかボタン」を押してください。
「最大燃焼」より熱量をおさえた「ゆるやか運転」をして、寒暖差の少ない暖房が得られます。

●ミニ暖運転

「ミニ暖ボタン」を押しますと、室内温度、設定室温に関係なく、「微燃焼」「微温風」で運転します。
暖かさをおさえた暖房が得られます。

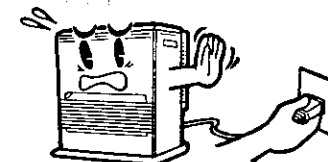
セーブセレクト運転を解除したいときは、それぞれのボタンをもう一度押してください。また、各ボタンの操作により、つぎのような運転となります。

●「おさえめ」または「ゆるやか」運転中に、設定されていない「ゆるやか」または「おさえめ」ボタンを押すと、「おさえめ」と「ゆるやか」の組合わせ運転となります。
●「おさえめ」または「ゆるやか」運転中に「ミニ暖ボタン」を押すと「ミニ暖運転」となります。
「ミニ暖運転」が解除されると「おさえめ」または「ゆるやか」運転に戻ります。
●「ミニ暖運転」中に「おさえめ」または「ゆるやか」ボタンを押すと「ミニ暖運転」は解除され、押したボタンのモードで運転します。
●一度「切ボタン」を押して消火すると、「ミニ暖運転」は解除されます。

消火

「切ボタン」を押します。

「運転ランプ」が消灯し、約20秒ほどで消火します。

●温風ファンはストーブが冷えると自動的に停止します。
●外出するときは、必ず消火してください。
●長期間留守にするときは、必ず電源プラグを抜いて電源を切ってください。

ご注意

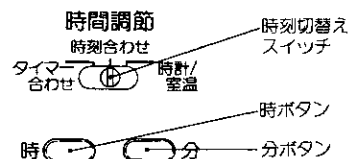
緊急時や長時間使用しないとき以外は、電源プラグをコンセントから抜かないでください。
燃焼中に電源プラグを抜きますと、のぞき窓がくもったり、異常点火することがあります。

消火後再点火するときの注意

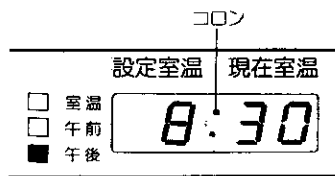
「切ボタン」を押した後、すぐに運転したい場合でも、温風ファンが止まるまでお待ちください。
すぐに「運転ボタン」を押しても、消火操作後約3分間は運転が開始されません。

タイマー運転

●おはようタイマー運転は、朝お目覚めのときや、あらかじめお部屋を暖めておきたいときに使います。
●おはようタイマー運転は、「現在時刻」「おはようタイマー運転時刻」の両方をセットしないと使用できません。
●おはようタイマー運転をするとセットした時刻にはお部屋が暖まっているように、前もって運転を開始します。
●おやすみタイマー運転は、1時間運転後に自動消火します。

現在時刻のセット方法

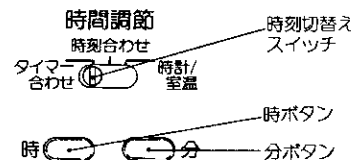
1 「時刻切替えスイッチ」を「時刻合わせ」にセットします。

2 「デジタル表示」を見ながら「時ボタン」「分ボタン」を押して、現在の時刻をセットします。
「午前」「午後」を確認します。

3 時刻を合わせたら「時刻切替えスイッチ」を「時計/室温」にセットします。
「コロン」が点灯し、時計が動き始めます。

午後8時30分の例

●「時ボタン」「分ボタン」は、一度押すごとに1時間または1分ずつ進み、押し続けると連続して進みます。

おはようタイマー運転時刻のセット方法

(朝起きる時刻等をセットします。)

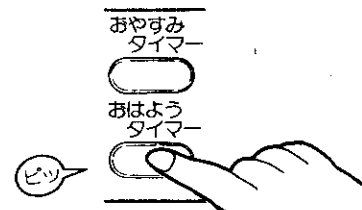
1 「時刻切替えスイッチ」を「タイマー合わせ」にセットします。

2 「デジタル表示」を見ながら「時ボタン」「分ボタン」を押して、お望みの運転時刻をセットします。
「午前」「午後」を確認します。

3 時刻を合わせたら「時刻切替えスイッチ」を「時計/室温」にセットします。
「デジタル表示」は現在時刻の表示に変わります。

午前6時30分の例

運転時刻は一度セットすると記憶されています。次回から同じ時刻に運転するときは、あらためてセットする必要はありません。

おはようタイマー運転の方法

1 「おはようタイマーボタン」を押します。

「おはようタイマーランプ」が点灯します。

運転　おやすみタイマー　おはようタイマー

おはようタイマーランプ

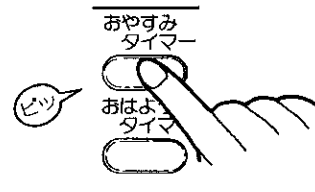
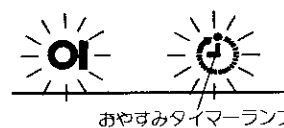
●デジタル表示に5秒間タイマー運転時刻(セット時刻)を表示します。
その後は現在の時刻を表示します。

2 セットした時刻に近づくと、そのときの室温と、設定室温との差を検知して、セット時刻より前に点火し、運転します。

現在室温と設定室温との差	点火(運転)開始時刻
およそ5℃未満	セット時刻の10分前
およそ9℃以上	セット時刻の20分前
およそ13℃以上	セット時刻の30分前
およそ19℃以上	セット時刻の60分前

●室温が6℃以下のときは90分前から運転します。
●「運転ランプ」が点灯し、「おはようタイマーランプ」はセット時刻になると消えます。
●おはようタイマー運転を取消したいときは、「切ボタン」を、通常運転にしたいときには「運転ボタン」を押してください。

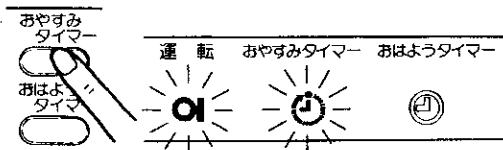
おやすみタイマー運転の方法

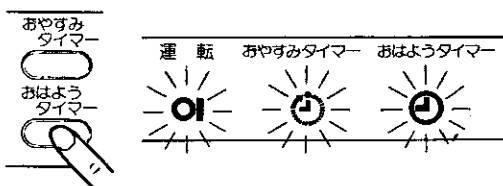
1 「おやすみタイマーボタン」を押します。

「運転ランプ」「おやすみタイマーランプ」が点灯し、通常の点火が行われます。

おやすみタイマーランプ

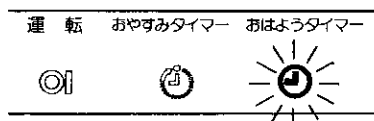
2 1時間運転した後、自動消火します。

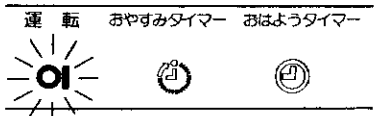
●運転中に「おやすみタイマーボタン」を押すと、1時間後に自動消火します。
●消火したいときは「切ボタン」を、運転を続けたいときは、「運転ボタン」を押してください。
●「おやすみタイマーボタン」を再度押すと、その時点から更に1時間運転します。

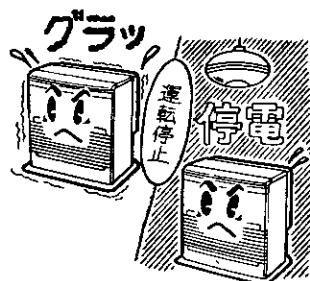
〈おやすみタイマー運転／おはようタイマー運転〉の同時使用方法

1 「おやすみタイマーボタン」を押します。
「おやすみタイマーランプ」「運転ランプ」が点灯し、通常の運転が始まります。

●運転中でもこのセットは可能です。

2 「おはようタイマーボタン」を押します。
「おはようタイマーランプ」も点灯します。

3 1時間運転した後、自動消火します。
「おはようタイマーランプ」のみ点灯しています。

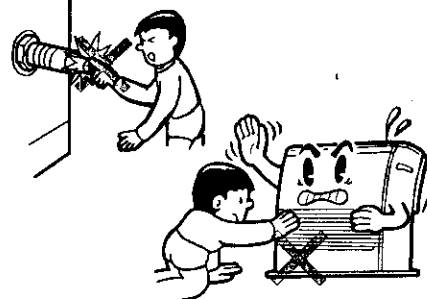
運転　おやすみタイマー　おはようタイマー

4 セット時刻より前に自動的に運転が始まり(「運転ランプが点灯する)、セット時刻にはお部屋が暖まっています。
「おはようタイマーランプ」はセット時刻になると消えます。

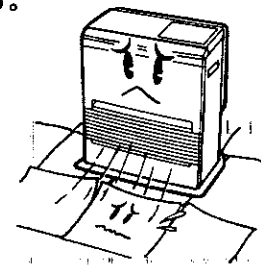
運転　おやすみタイマー　おはようタイマー

■運転中やタイマー作動中に停電や地震、電源プラグがコンセントから抜けたとき

●安全装置が働いて運転を停止します。再び通電されても運転しません。
再点火はストーブが冷えてから行ってください。
暖かいうちに点火操作をしますと、過熱防止装置が作動することがあります。

●「ボン」と音がすることもありますが、心配ありません。

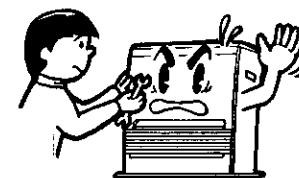
●停電などで電源が切れたときは、「現在時刻」「おはようタイマー運転時刻」「設定室温」「おさえめ運転」「ゆるやか運転」の記憶が解除されます。
それぞれセットしなおしてください。

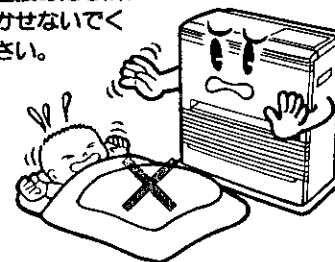
使用上の注意

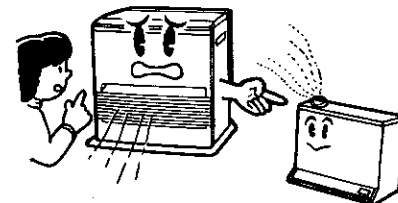
■給排気筒は高温です。
やけどに注意してください。

＊温風吹出口も高温になりますので、触らないでください。

■熱に弱いじゅうたんや床の上で長時間使用しますと、変色したり、そり返ることがあります。

＊その際は、市販の熱に強いポリエステル系のマットなどを前方１ｍくらいまでしいてください。

■ストーブや給排気筒には、床暖房用熱交換器などを取り付けないでください。
ストーブや給排気筒に熱交換器などを取り付けると、排ガスの水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して給排気筒を塞ぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。
また、ストーブの寿命を短かくする原因にもなります。

■特殊な使い方（温室などの人のいない所での使用、部品を外したり、改造しての使用）**は、おやめください。**事故のもとになります。

■ストーブに腰かけたり、花びん等水のこぼれやすいものをのせないでください。
＊感電、故障、火災等の原因になります。

■お子様やお年寄り、体の不自由な方を温風の直接あたる所に寝かせないでください。

＊低温風でも、連続的にあたりますと低温やけどの恐れがあります。

■お部屋の乾燥に注意してください。
このストーブを使用すると、お部屋が乾燥し、健康上および家屋や家具等に悪い影響を与えることがあります。
乾燥する場合は、加湿器をお求めのうえ、併用してください。

より効果的に暖房するために

1 **「速暖インバーター運転」回路と「ホットダッシュ運転」回路による制御で、お部屋の暖まりを早めます。**
室温が10℃以下のときに点火操作しますと、この2つの回路のはたらきにより冷えきったお部屋の暖まりを早めます。(「ゆるやか」または「ミニ暖」運転セット中には、ホットダッシュ運転はしません。)

2 **加湿器(別売品)をお求めになってお使いいただくと、お部屋の湿度が上がり、暖房効果がより上がります。**
●加湿器をストーブの上にはのせないでください。

3 **次のようなことも注意してお使いいただくと、より効果的です。**
●日中はできるだけ太陽の光を部屋に入れ、夕方は早めに窓やカーテンを閉めて、お部屋に入った太陽の熱をにがさないようにする。
●夕方お部屋が冷えてから点火するのではなく、昼間の暖かさが残っているうちに点火する。
●窓にはカーテンをつける。(ただしカーテンがストーブに触れないようにする。)
●すき間風の入るようなところは、めばりをする。

安全装置

対震自動消火装置

強い振動や衝撃が与えられたとき、地震(約震度5)のときなどに作動して自動消火します。
なお、地震のときは「切ボタン」を押して消火してください。あわてて電源プラグを抜くと、ススが出たり、異常点火することがあります。
●感震部は自動復帰する構造になっていますが、安全のため自動的に再運転はしません。
再運転は、温風ファンが止まるまで待ってから点火操作してください。

過熱防止装置

①温風ファンガードにほこりがたまったり、カーテンなどでふさがれている。
②温風ファンの故障。③壁面との間が狭い。
④前面に障害物がある。
等の原因でストーブが過熱したときに作動して、自動消火します。
●必ずお買い求めの販売店に依頼して原因を確かめてもらい、その原因を取り除いてから運転してください。

炎監視装置

点火ミス、油切れなどのとき作動して、運転を停止します。
●19ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照して点検・処置してください。

停電安全装置

停電したり、電源プラグが抜けたときに作動して、自動消火します。
電源が切れると電磁ポンプが止まり油が流れなくなりますので、このストーブは停電時は使用できません。
●停電が回復しても自動的には再運転しません。
再運転は、ストーブが冷えるまで待ってから点火操作してください。

日常の点検・手入れ

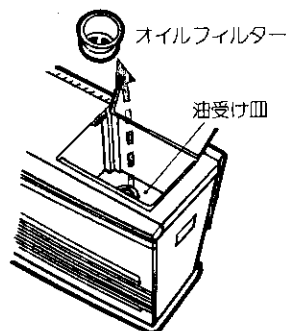
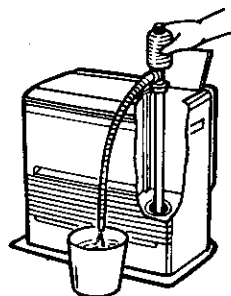
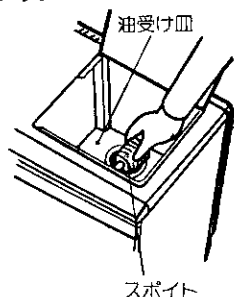
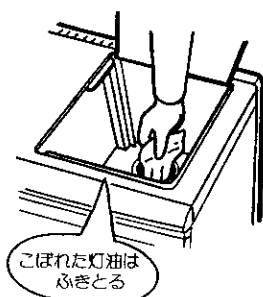
●日常の点検・手入れは必ず行ってください。
なお、化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。
●点検・手入れは必ず消火して、ストーブが冷えてから行ってください。
●バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。
不完全な修理は危険です。点検・修理等には高度な技術を要しますので、必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。

点検箇所	点検時期	点検内容	処置
本体の周囲	毎日	燃えやすい物が置いてないか。 カーテンが近づいていないか。	燃えやすい物は片づける。 カーテンが近づかないようにする。
置台	毎日	灯油が漏れてたまっていたり、 灯油がにじんでいないか。	●こぼれている灯油はふきとる。 ●灯油がにじんでいたり、漏れているときは使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼する。
送風機ガード	1週間に1回	ほこりが付着していないか。	●背面カバー(上)を外し、掃除機などでほこりをとる。
器具表面 温風吹出口	1週間に1回	ほこりなどが付着していないか。 異物などがはさまっていないか。	●掃除機などでほこりをとる。 ●異物は割ばしなどでとる。
オイルフィルター	給油のとき	油受け皿内にあるオイルフィルターが、ごみで目詰まりしていないか。	●きれいな灯油ですすぎ洗いする。 油受け皿 オイルフィルター
給油口口金	1か月に1回	通気口がごみなどでふさがれていないか。	●針などで取り除く。
給排気筒	1か月に1回	● つまりはないか。 ● 給排気筒先端の周囲に可燃物はないか。 ● 給気、排気の接続部に外れやゆるみはないか。	●異物やごみなどは取り除く。 ●周囲の可燃物は取り除く。 ●外れやゆるみのあるときは、使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼する。(有料)

●熱交換器、バーナ内の掃除、バーナ内に油が溜ったときの油抜き、定油面器のストレーナのお手入れ、点火ヒータの点検・交換などは、分解・手入れに高度の技術を要しますので必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。(ただし有料です。)

油受け皿の水抜き

ブザーが鳴って水検知ランプが点灯したときは、次の要領で水抜きを行ってください。

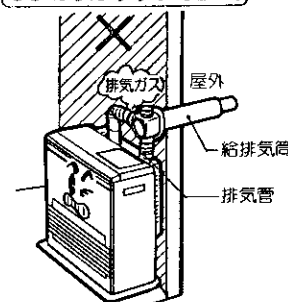
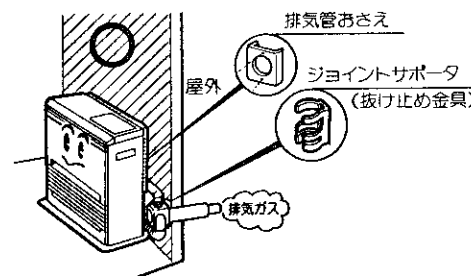
1 給油タンクを取り出し、油受け皿からオイルフィルターを外します。

2 市販の給油ポンプで水(灯油)を抜きとります。

3 抜けきらなかった水(灯油)は、付属のスポイトを左前方側に深く差し込んで抜きとります。

4 油受け皿内に付着している水を、布でふきとり、もとどおりにオイルフィルター、給油タンクを取り付けます。

別設油タンク使用の場合

- 油タンク内に水(ドレンという)がたまっていないか、1か月に1回ほど点検してください。
  水がたまっているときは、油タンクの「取扱説明書」を参照して、水抜きを行ってください。
- 本体と油タンクを結ぶ「送油用ゴムホース」に、ひび割れなどがないか、給油時に点検してください。
  異常があればお買い求めの販売店に交換を依頼してください。(ただし有料です。)

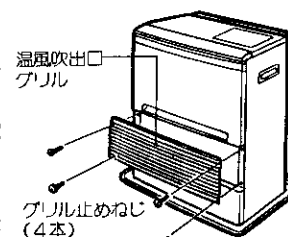
給排気筒の点検

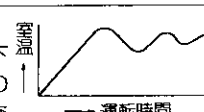
1 ときどき給排気筒および延長管の接続箇所が、正しく、しっかりと接続されているか、つまりはないか、確認してください。
接続箇所がはずれていますと、排気ガスが漏れて非常に危険です。
もし不具合がありましたら、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。(有料)

■チェックポイント
- 排気管おさえはついていますか。
- ジョイントサポータ(抜け止め金具)はついていますか。

- 接続部が外れている。
- においうようになった。
- まわりがすすけてきた。

2 温風暖房器を都合により動かされた場合(畳替え、ジュータンのはり替え、収納及び再据付け時等)には必ずお買い上げの販売店に点検および再据付けをご用命ください。(有料)

異物が入ったときの分解方法

ストーブの内部に異物などが入りますと、故障や火災の原因となります。
特にお子様が温風吹出口グリルより紙やプラスチックなどを入れることがありますので、じゅう分注意してください。
もし異物が入ったときは、消火して本体がよく冷えてから電源プラグを抜き、温風吹出口グリルを外して、取り除いてください。
- 温風吹出口グリルは、左右を止めている止めねじ(4本)をドライバーで外せば、取り外せます。

定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。万一の事故を未然に防止するためと、快適にご使用いただくために、1シーズンに1回程度シーズン初めか終りのどちらかに、お買い上げの販売店、または最寄りの「日立家電品ご相談窓口」にお問い合わせいただき、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL03-499-2930)の技術講習会修了者(点検整備士)〕のいる販売店にご依頼されることをおすすめします。(但し、有料です。)

故障・異常の見分け方と処置方法

燃焼のぐあいの悪いときは、つぎの表を参考にして調整、処置してください。
ご不審な点がありましたらただちに使用をやめて、お買い求めの販売店にご相談ください。

原因＼現象	油が出ない	点火しない	炎が大きくならない	スス(煙)が出る	燃焼音がはげしい	油がもれる	対流用送風機が回らない	炎が安定しない	点火後しばらくして消火した	処置方法	参照ページ
給油タンクに油がない	○	○							○	灯油(JIS1号灯油)を給油する	6
定油面器の故障	○	○				○			○	販売店に修理を依頼する	—
定油面器がセットされていない	○	○							○	定油面器セットレバーを2～3回押し下げる	7
油配管の締付けが不完全	○	○				○				販売店に依頼して、確実に締付けてもらう	—
給排気筒が不完全、排気管または、給気ホースが外れている。		○	○	○	○			○		販売店に依頼して、正しく設置あるいは取り付けてもらう	18
電源プラグやスイッチが不完全	○	○		○			○			販売店に修理を依頼する	—
停電	○	○					○		○	通電するまで待つ	13
燃焼用送風機の故障		○		○	○			○	○	販売店に修理を依頼する	—
燃焼用送風機の羽根にごみやほこりが付着している				○	○			○		販売店に修理を依頼する	—
対流用送風機の故障							○		○	販売店に修理を依頼する	—
電磁ポンプの故障	○	○	○	○	○			○	○	販売店に修理を依頼する	—
点火ヒータの故障		○								販売店に修理を依頼する	—
制御部品の故障	○	○	○	○			○		○	販売店に修理を依頼する	—
油タンクの据付け高さが低い(別設油タンク使用時)	○	○						○	○	ストーブ本体と同じ高さの床面に置く	32
送油ホースに空気が入っている(別設油タンク使用時)	○	○						○	○	ホースを振って空気を抜く	33

サービスをお申しつけになる前に

次のような現象の場合は異常ではありません。
サービスをお申しつけになる前に、もう一度確認してください。

現象	確認事項および理由
「運転」操作しても運転しない	●バーナを予熱する方式ですので、予熱時間が約3分必要です。 ●初めて使用するときや油抜きをした後は、灯油が充分まわるまで約5分必要です。
停電等により電源が一時切れ、再通電しても運転が再開しない(気付かないような瞬時の停電でも運転は再開しない)	自動的に運転は再開しない構造になっています。 ストーブが冷えていることを確認してから運転してください。
おはようタイマー運転をしたがセットした時刻になっても点火しない	●運転ボタンを押して、運転するか確かめてください。 ●途中で停電があり、おはようタイマーのセットが解除されたためです。点火する際は運転ボタンを押してください。
点火時や消火時にキシミ音がする	熱交換器の膨張、収縮する音で、心配ありません。
初めて点火したとき、においが出る	塗料などの焼けるにおいです。においがなくなるまで(強燃焼で約30分ほど)窓をあけて運転してください。
運転中、ストーブが消火した(運転ランプは点灯している)	ルームサーモがはたらいて消火したものです。 室温が下がれば再び点火します。
室温が常に一定でない	室温調節は、燃焼の"強・中・弱・微・消火"によって行いますので、室温は多少上下動します。またルームサーモの感熱部の温度とお部屋中央部の温度にも違いがあります。 (図：室温 / 運転時間)
燃焼中にストーブが消火し、再点火操作をしても火がつかない	灯油がなくなり、油切れ検知装置が働いています。 給油し、再点火してください。
使用中や消火後でも、ときどき「ポコポコ」という音がする	ご使用中は、給油タンクから油が出るときに、空気が入る音です。消火後でも音がするときは、室温の変化によってタンク内に空気が入る音です。故障ではありません。

部品交換のしかた

交換部品(消耗部品)は、必ず日立密閉式石油ストーブ(日立温風クリアヒーター)KH-G40形・またはKH-G50形用の純正部品をご使用ください。

部品	注意
点火ヒータ 燃焼リング フレームロッド オイルフィルター	バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。交換は高度の技術が必要です。お買い求めの販売店・または最寄りの「日立家電品ご相談窓口」にお問い合わせいただき、(財)日本石油燃焼機器保守協会の技術講習会修了者(点検整備士)のいる販売店にご依頼ください。(有料)

故障・異常の表示

「デジタル表示」に故障・異常を数値で表示し、お知らせします。

〈故障の表示例〉

1「E00」「E01」「E04」「E05」「E06」**が表示され、ブザーが鳴ったときは故障です。**
お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
なお、数値はメモして修理を依頼する際にお知らせください。

〈異常の表示例〉

2

2「1」「2」「5」**が表示されたときは、異常状態です。**
19、20ページも参考にして処置してください。

表示	原因	処置方法
1	点火不具合 ●初めての使用やシーズン最初の使用などで、灯油がゆきわたっていない。 ●不良灯油を使用した。	①もう一度点火操作する。 ②不良灯油を使用したときは販売店に相談する。
2	●温風ファンや温風吹出口がふさがれて安全装置(過熱防止装置)が作動した。 ●強い衝撃や振動が加わったため、安全装置(対震自動消火装置)が作動した。	15ページを参照して原因を取り除き、本体や周囲に異常がないことを確かめる。
5	燃焼中の失火 ●灯油が供給されていない。	油タンクの油量を確認する。

●「切ボタン」を押すと、故障・異常の表示は消えます。

保管(長期間使用しない場合)

シーズンオフには、つぎのようなお手入れをして、設置したままで保管してください。

1 保管前に

特別な理由のない限り、ストーブを取外しておしまいにならないでください。
やむをえず取外した場合は、来シーズンは必ずお買求めの販売店に依頼して、給排気筒などの接続部を傷めないよう、確実な据付けを行ってください。(再据付けは有料です)

2 ストーブの清掃

●ストーブ外側のよごれやほこり等を、きれいに掃除してください。
●ストーブ内部の清掃は、必ずお買求めの販売店に依頼してください。(お手入れは有料です)

3 油の除去

油タンクはからにして、内部にごみや水(ドレン)が残らないようきれいな灯油でよく洗い、乾燥させてください。ごみや水が入ったまま保管しますと、サビの発生や穴あきの原因となります。

4 保管

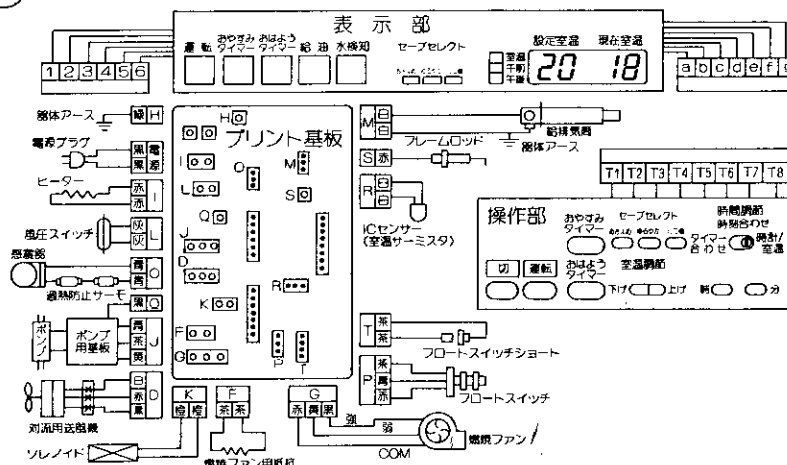
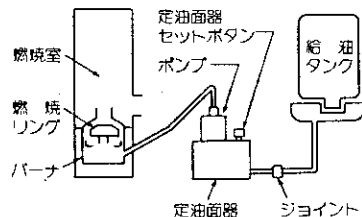
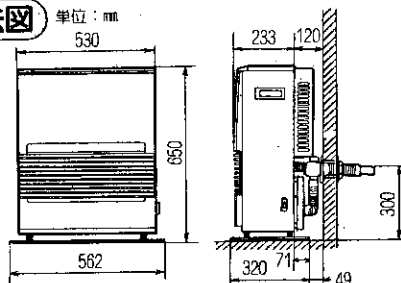
●電源プラグをコンセントから抜いてください。
●ストーブには、ほこりなどが入らないようなカバーをかけて保管してください。
なお、別売部品に本体カバーがありますので、ご利用ください。

仕様

形式の呼び		KH-G40	KH-G50
種類		ポット式・強制対流形	
点火方式		電気点火	
使用燃料		灯油(JIS1号灯油)	
暖房出力	最大	14,700KJ/h(3,500kcal/h)	19,700KJ/h(4,700kcal/h)
	最小	7,600KJ/h(1,820kcal/h)	8,500KJ/h(2,020kcal/h)
発熱量(入力)	最大	15,900KJ/h(3,800kcal/h)・熱効率92%	21,300KJ/h(5,090kcal/h)・熱効率92%
	最小	8,300KJ/h(1,980kcal/h)・熱効率92%	9,200KJ/h(2,200kcal/h)・熱効率92%
燃料消費量	最大	0.462ℓ/h	0.618ℓ/h
	最小	0.24ℓ/h	0.27ℓ/h
油タンク容量		5ℓ	
外形寸法(置台を含む)		(高さ)650㎜ (幅)562㎜ (奥行)320㎜	
重量(本体)		25.5㎏	
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz	
定格消費電力(50/60Hz)		最大:700/700W(点火初期に短時間発生)、点火時280/270W、燃焼時60/60W	
給排気筒径		50㎜	
給排気筒壁貫通部孔径		65〜70㎜	
排気温度		約200℃	約230℃
電流ヒューズ		2A・10A	
安全装置		対震自動消火装置・過熱防止装置・停電安全装置・炎監視装置	
附属品		置台・外フランジ・フランジパッキン・絶縁シール・本体固定金具(2)・背面カバー(1式)・キャップオープナー・スポイト・別設油タンク用ニップル・エアダンパー(2)・ねじ(20㎜×5、8㎜×2)・ゴム栓	

配線図

表示部
運転 おやすみタイマー おはようタイマー 給油 水検知 セーブセレクト 設定室温 現在室温
20 18
プリント基板
操作部
切 運転 おやすみタイマー おはようタイマー セーブセレクト 時計調節 時刻合わせ タイマー合わせ 時刻/室温 室温調節 下げ 上げ 時 分
筐体アース 電源プラグ ヒーター 風圧スイッチ 感震器 過熱防止サーモ ポンプ ポンプ用基板 対流用送風機 ソレノイド
フレームロッド 給排気筒 筐体アース ICセンサー(室温サーミスタ)
フロートスイッチショート フロートスイッチ 燃焼ファン 燃焼ファン用抵抗 COM 強 弱

仕　様

送油経路図

外形寸法図 単位：mm

アフターサービス

■サービスを依頼される前に

サービスを依頼される前に19ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」項および20ページ「サービスをお申しつけになる前に」項をご覧になり、もう一度ご確認ください。

確認の上、それでも不具合な場合は、ご自分で修理なさらないで、お買い求めの販売店にご相談ください。

●アフターサービスをお申しつけいただくときは、次のことをお知らせください。

①形式名……KH-G40またはKH-G50　③道　順………付近の目印も
②現　象……できるだけ詳しく　④おところ·お名前·電話番号

■転居される場合

ご転居によりお買い求めの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。

なお、この製品は再据付工事の他に周波数が変る場合は、給気用のエアダンパーの調整が必要となりますので、転居先の販売店にご相談、ご用命ください。(但し有料です。)

■保　証

●この商品は保証書付きです。保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記入内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間はお買い上げの日から１年間です。
なお、保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

●保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
当社は販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

■補修用性能部品の保有期間について

●密閉式石油ストーブの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後７年です。
この期間は、通商産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

アフターサービスについてご不明の場合、その他お困りの場合は、お買い上げの販売店か、別紙「ご相談窓口一覧表」の窓口にお問い合わせください。

据付け工事の確認と試運転 ⋯➡

据付け場所の選定

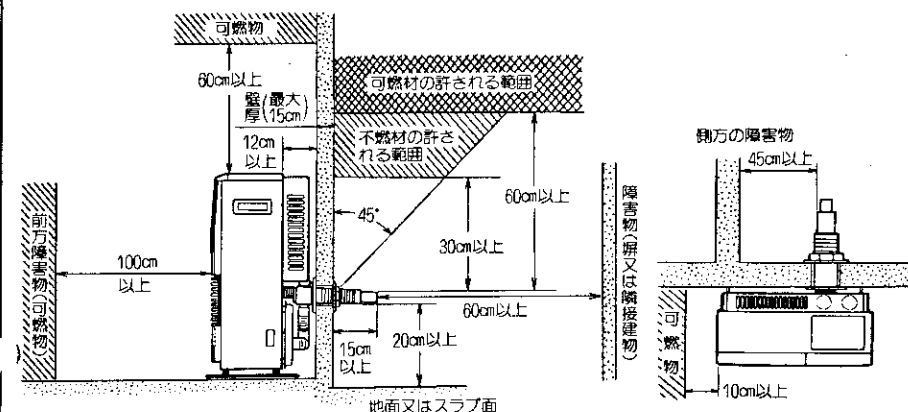
1 ストーブの据付けについては、火災予防条例、石油燃焼機器の設置基準等による規制がありますので、販売店や据付業者とよく相談してください。

2 積雪の多い地方では、給排気筒が雪でふさがれないように注意してください。
また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがありますので、注意してください。

3 電源は、正しく配線された家庭用100V(50/60Hz)をお使いください。
専用のコンセントを用いるようにしてください。

4 据付け場所については26ページを参照してください。

標準据付け例

可燃物
60cm以上
壁(最大)厚(15cm)
12cm以上
可燃材の許される範囲
不燃材の許される範囲
45°
60cm以上
30cm以上
前方障害物(可燃物)
100cm以上
60cm以上
20cm以上
15cm以上
障害物(塀又は隣接建物)
地面又はスラブ面
側方の障害物
45cm以上
可燃物
10cm以上

据付け工事後の確認 販売店又は据付業者と立合いで、正しく設置されているか確認してください。

1 本体およびその周辺

❶可燃物との距離はじゅう分とってありますか。
排気管にカーテンや可燃物が触れていませんか。

❷熱に弱い床面は、防熱処置をしましたか。(14ページ参照)

❸水平に据付けられていますか。

❹背面の電源コード、配線、給気ホース等が、排気管に接触しているようなことはありませんか。

❺電源は、電源コードの有効長さの範囲内にある専用コンセントを用いていますか。

据付け工事の確認と試運転

2 給排気筒

❶確実に取付けられ、周囲の可燃物等との距離はじゅう分とってありますか。
❷給排気筒を延長する場合の延長限界は、長さ3m、曲りは3ケ所（本体出口の曲りを含む）以内です。なお、給排気筒の貫通部および寸法は、標準据付例を参照してください。
❸接続部のゆるみ、外れはありませんか。
❹排気管外れ検知装置のリード線が、給排気筒に接続されていますか。
❺決められたとおりエアダンパーを給気ホース接続部に取付けましたか。

3 油タンク（別設油タンク使用のとき）

❶ストーブと油タンクの距離は2m以上ありますか。
❷安全な位置で、転倒や落下のおそれはありませんか。
❸直射日光や雨水のあたることはありませんか。
❹送油ホースは確実に接続されていますか。
なお送油ホースは屋外での使用は禁じられています。油タンクを屋外に設置した場合は、金属管配管を行ってください。

試　運　転

1 運転準備（詳しくは6〜7ページを参照してください。）

❶油タンクに灯油(JIS1号灯油)を給油してください。
❷電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。
❸右下にある定油面器セットレバーを2〜3回押し下げてください。
❹ストーブの下部(置台の上)などに、油もれや油だまりがないか確かめてください。
●別設油タンクを使用のときは、油タンクの送油バルブを開き、一度送油ホースを振って空気抜きをしておいてください。(送油ホース内に空気だまりがあると油が流れません。)

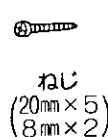
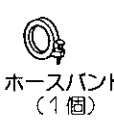
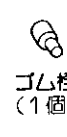
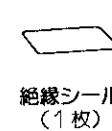
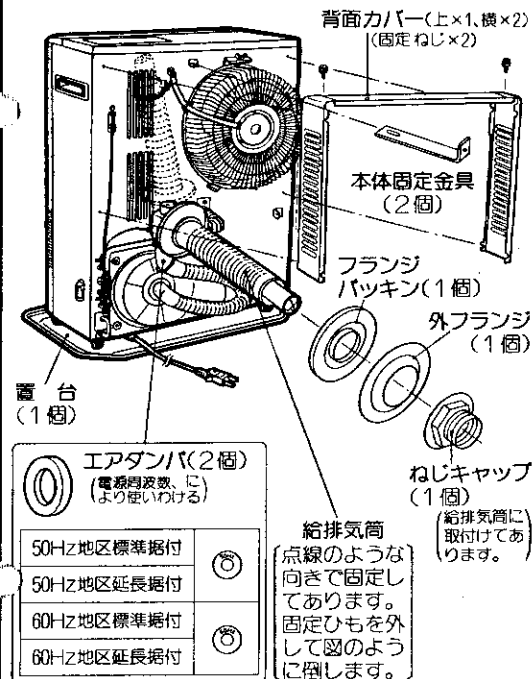
2 運転

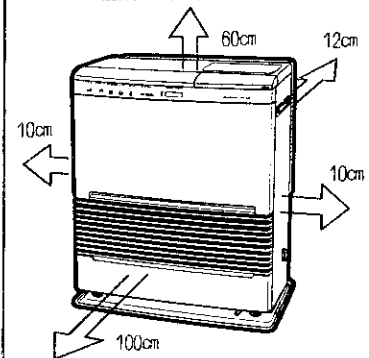
❶運転操作は、8〜13ページを参照して行ってください。
❷初めてお使いになるときは、油が定油面器に入るまでに5分ほどかかりますので、点火するまでに多少時間がかかります。
❸試運転時、塗料の焼けるにおいがすることがあります。
30分ほど窓をあけて運転してください。
❹点火後、約2分たちますと、自動的に対流用送風機が回って温風が出ます。
❺設定室温を変え、燃焼が変るかを確かめてください。
❻消火操作後は約20秒で火が消え、しばらくして温風も止まることを確かめてください。

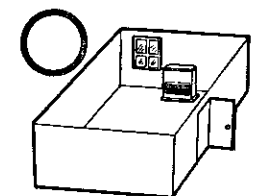
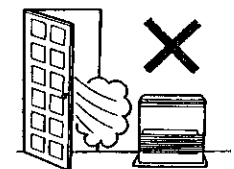
〔以上で試運転は完了です。〕

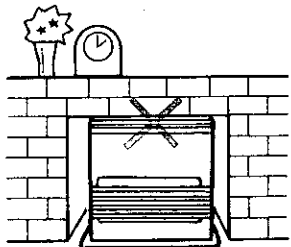
開こん　据付け ⋯➡

開こんの際の注意と付属部品の確認

●ダンボール箱からストーブを取り出しましたら、パッキン、テープ等の包装材を取り除いてください。
●上部に入っているダンボールのパッキン(上シート)は、据付けるときに使用する型紙になっていますので、捨てないでおいてください。
●付属部品の確認を行なってください。

据付け場所の選定

1 ストーブの周囲は、下図に示すような寸法内に障害物、可燃物等のない場所をお選びください。

●点検・サービス・電源コンセント等の都合も併せて考慮してください。

2 ストーブの据付け場所は、暖房効果の良い場所、丈夫で水平な床面、給排気筒を屋外に出すのに適した位置、等を考慮してお選びください。
●暖房効果の点で、お部屋の冷えやすい位置に据付けてください。

●ドアの近くやすき間風の入るところには据付けないでください。

据付け場所の選定（つづき）

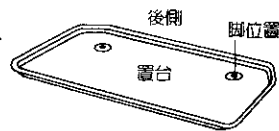
3 可燃性のマントルピース内へ据付けてはいけません。

なお、防火処置をしてある場合でも、可燃物との離間距離は必ず守ってください。
守っていただけないと、ストーブが過熱するなど故障の原因となることがあります。

4 屋外に出した給排気筒の周囲に、可燃物や障害物があってはいけません。
給排気筒先端の排気ガス温度は約230℃になります。
また、給排気筒からは多少臭気が出ますので、隣近所の迷惑にならないような場所を選んでください。

5 給排気筒を延長する場合の延長限界は、長さ3ｍ、曲りは3ヶ所(本体出口の曲りを含む)以内です。

据付け方法

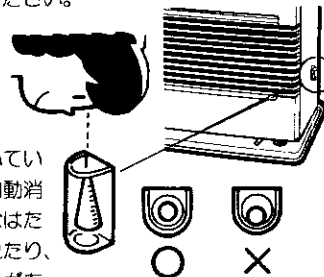
1 置台の取付け

ストーブ据付け位置に置台を置き、その上にストーブを設置してください。
その際ストーブの脚が、置台の脚位置にくるようにしてください。

2 電源の接続

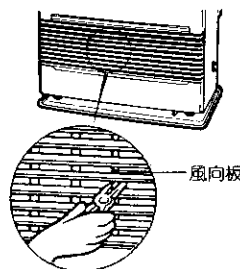
電源プラグを家庭用100Vのコンセントに差し込んでください。

- 専用のコンセントを使用してください。
- 電源コードが給排気筒などの高温部に触れないよう注意してください。
- プラグはしっかりと差込み、また抜き差しは必ずプラグを持って行なってください。

3 水平調節

ストーブの右側面に水平器があります。
水平器の指針先端が合わせマークの中心にくるよう、置台に設置してください。

- ストーブが傾いていますと、対震自動消火装置の正常なはたらきが妨げられたり、点火しないことがあります。

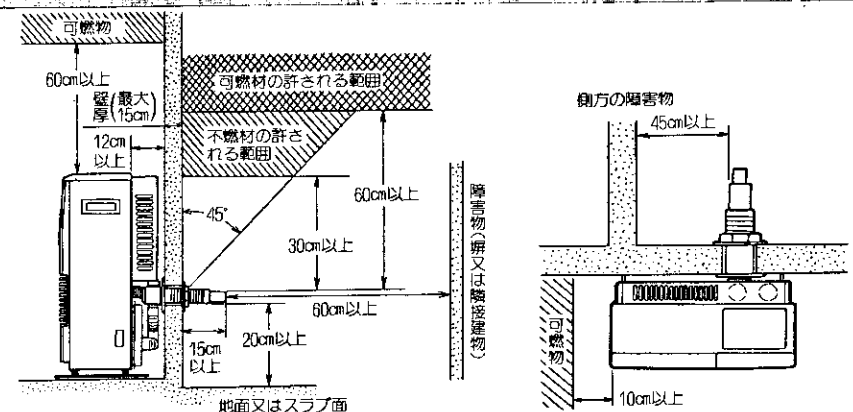
4 風向板の調節

温風吹出口の内側の風向板により温風吹出し方向を調節できます。
据付けのとき、ラジオペンチなどを用いて希望の方向に風向板を曲げてください。
（3回以上曲げないでください。）

給排気筒の取付け …➡

給排気筒は、ストーブに取付けてあるものか、または当社指定のものを使用してください。
これら以外のものを使用すると、不完全燃焼や器具の過熱、火災等の危険があります。

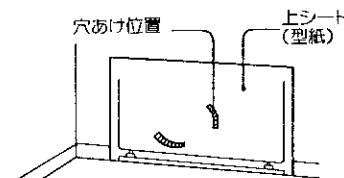
給排気筒の取付け場所の選定

- 給排気筒先端は、外気に面している壁に取付けてください。
- 雪で給排気筒先端が埋まるような場所や風の吹きだまりになるような場所には取付けないでください。
- 大きな樹木等の障害物のない場所へ取付けてください。
- 給排気筒先端からは熱い排気ガスが出ます。
  プロパンガスボンベや、石油かん等の危険物のない場所に取付けてください。
  また、前方の可燃性障害物との距離は60cm以上確保してください。

給排気筒の取付け図例

- 給排気筒先端の給排気部に、絶対物をかぶせないでください。
- 給排気筒先端は高温になりますので、手の触れやすい場所に据付けられる場合は、別売の給排気筒先端ガードをご使用ください。

給排気筒の取付け工事方法(標準据付けの場合) …➡

1 壁穴の位置を決める

梱包材として使用していた上シート(型紙)をあてて、穴あけ位置を決めてください。
なお、26ページ「据付け場所の選定」項で示す周囲の寸法は必ず守ってください。

2 壁穴をあける(約2°傾斜させてあける)

センタードリルで中心に穴をあけた後、φ6.5~7.0cmホールソーカッターで壁に穴をあける。

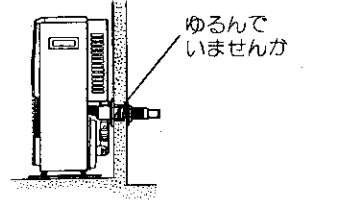
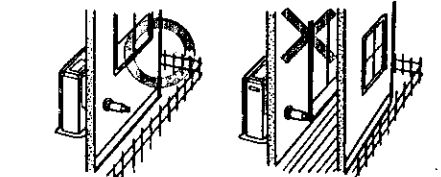
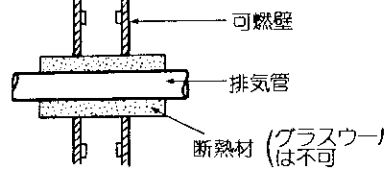
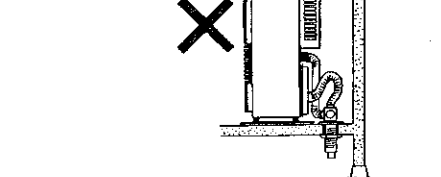
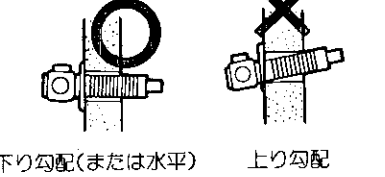
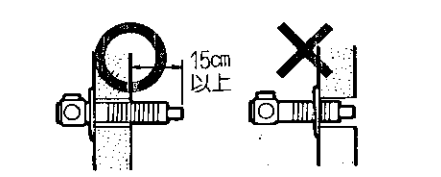
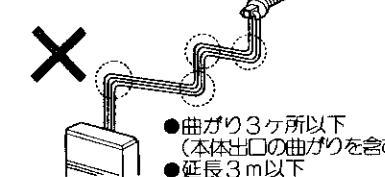
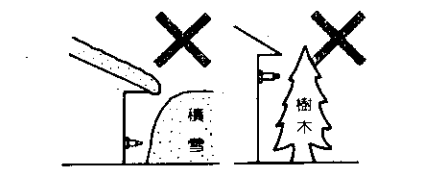
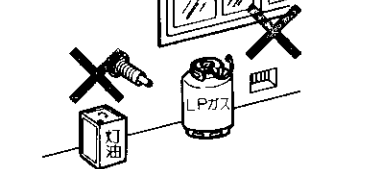
- 壁穴は2度傾斜(外に向って下り勾配)してあける。

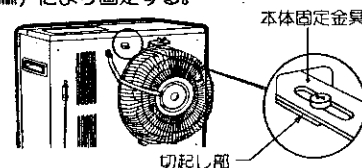
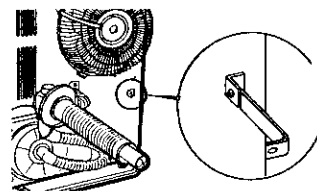
3 給排気筒を取付ける

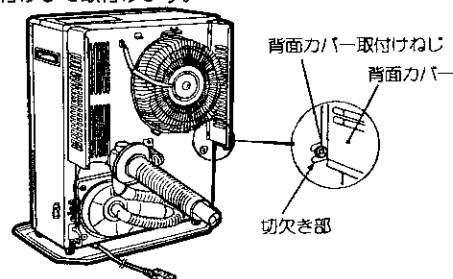
❶本体背面に給排気筒と給気ホースが固定してあります。
固定ひもを外して給排気筒を図のように倒します。

●給排気筒に取付けてあるねじキャップを外しておいてください。

❷26ページのエアダンパーの使用区分にしたがって、付属のエアダンパーをはめ込んで、給気ホースを給排気筒に接続し、ホースバンドでしっかり締め付けます。

❸給排気筒のフランジを、「上」の文字部が上になるようにします。
●給排気筒のフランジは回転するようになっていますので、筒の部分をしっかり持ってフランジを回転してください。
●給排気筒に接続されているリード線は、必ず接続してください。
(外れていると運転しません)

4 本体固定金具を本体に取付ける

本体背面にある切起し部（上部1か所と下部2か所のうちの1か所）に、本体固定金具を差し込み、付属のねじ（長さ8㎜）により固定する。

●窓などがあって本体背面上部での固定ができないときは、下部の切起し部2か所をご利用ください。

5 背面カバー横を取付ける

本体背面の背面カバー取付けねじ(左右各2本)をゆるめ、背面カバー横(右・左)の切欠き部を差し込んで再締付けして取付けます。

6 本体固定金具を壁面等に固定する

❶置台と本体を持ち上げるように移動させ、壁穴に給排気筒を差し込みます。
●給排気筒のフランジ部が壁面にピッタリ付くようにしてください。

❷本体固定金具の他端を、ねじ(長さ20㎜)で壁面等に固定します。
●本体固定金具は、ストーブと壁面との寸法によって調整できます。

7 背面カバー上を取付ける

たて延長用ノックアウト穴が後から見て左側にくるような向きで背面カバー上をのせ、固定ねじで取付けます。

8 外フランジ、ねじキャップを取付ける

❶フランジパッキンにコーキング剤を塗る。

❷フランジパッキンの「上」印部を上にしてはめ、外フランジを取りつける。

❸ねじキャップをねじ込み、しっかりと固定する。

●この作業は、給排気筒を片手で握り、屋外へ引っ張るようにしながら行ってください。
そうしないと、給排気筒が室内側へ押し込まれていきます。

延長据付けについて

給排気筒の取付け方法は、標準据付けの他に応用(延長)据付けもできます。
お部屋の状態等により延長据付けを行う場合は、販売店または据付業者とよくご相談の上、ご依頼ください。
なお、延長据付けを行う場合の延長限界は、長さ3ｍまで、曲りは3ケ所（本体出口の曲りを含む）以内です。
●たて延長の場合、背面カバー上のノックアウト穴をハンマー等でたたいてあけ、排気管、給気パイプを通してください。

変則工事の禁止

ストーブの据付けおよび給排気筒の取付けは、必ず24ページの例図に示す要領によるか、または別に定めてあります応用据付けの許容範囲内で、正しく行う必要があります。
これらによらない変則的な取付けを、販売店にご用命にならないでください。
●床下に直接給排気したり、また集合煙突に給排気筒を取付けることは、絶対におやめください。
不完全燃焼します。

給排気筒の点検

給排気筒の取付け工事が終りましたら、取付けが完全に行われているか、念のためもう一度点検してください。次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼を起こすおそれがありますので、必ず正しく処置してください。

別設油タンクの据付け方法 …➡

別設油タンクを使用されるときは、本体配管の変更と、配線の接続が必要です。
次の要領で行ってください。

ストーブ側の準備

1 給油タンクを抜きとり、油受け皿の油抜きを行います。(17ページ参照)

2 背面下部のフクロナットを外します。

●灯油が流出しますので、油受け用の容器(容量200cc程)を置いて行ってください。
●スパナは2本用意し、ニップル側とフクロナット側に掛けてください。

3 外したパイプに付属のゴム栓をし、ニップル部に別設タンク用ホースニップルをフクロナットを締めて接続します。

●パイプはわきに少し曲げておいてください。
●周囲にこぼれた灯油は、きれいにふきとっておいてください。

4 背面にある短絡リード線(茶色)を接続します。

油切れ時の給油ランプの点滅や水検知ランプの働きを止めます。

5 オイルフィルターを外し(17ページ参照)保管します。

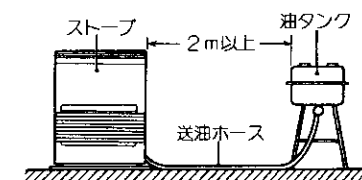
●オイルフィルターが油受け皿内に入ったままですと、誤って灯油の入った給油タンクをセットすると油が流出します。

油タンクの組立てと据付け

❶油タンクは「日立油タンクOT-38、OT-62、OT-91N」(別売)をご利用ください。

❷組立ては、油タンクの「取扱説明書」にしたがってください。

❸据付けは、不燃材料の上に据付け、簡単に動いたり、倒れたりすることのないようにし、畳、じゅうたんなどの上には据付けないでください。

❹ストーブとの間に防火上有効な壁等がない場合は、2m以上離してください。

❺ストーブ据付け床面と同じ高さの床面に据付けてください。

ご注意

●屋外設置の大型油タンクを使用する場合は、ストーブ据付け床面より油タンク下面までが40cm以上で、上面までが2.6m以下になるようにしてください。

●油タンクの設置位置が低いと油がストーブに流れず、また高すぎると定油面器内の安全装置が作動して油が流れなくなり、使用できなくなります。

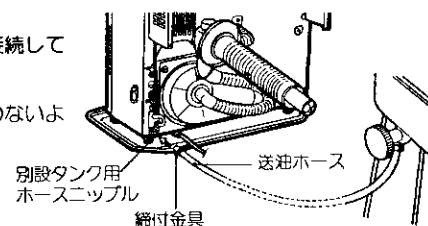
●油タンクの据付けについて各地の火災予防条例でこれと異る定めがある場合は、それに従ってください。

送油ホースの接続

❶送油ホースは、「日立送油ホースOTH-90SかOTH-90L」(別売)をご利用ください。
❷取付けた別設タンク用ホースニップルに、送油ホースを接続し、締付金具でしっかりと固定してください。

●送油ホースは直射日光の当たる場所(屋外)での使用は禁じられております。
屋外配管するときや、埋設部分があるときは、鋼管または銅管配管工事を販売店に依頼してください。

❸油タンク側も送油ホースのもう一方を同様に接続してください。

●送油ホースは途中での盛り上がりやもつれのないようにしてください。
空気だまりの原因になります。

接続が終りましたら油タンクに給油して送油バルブを開き、定油面器セットレバーを2～3回押し下げて30分程待ち、接続部に灯油のにじみがないか確かめてください。

MEMO

お 願 い

このストーブには、万一排気管の接続部が外れたとき、運転を停止させる「排気管外れ検知センサー」が内蔵されています。

据付時には、給排気筒に、必ずリードセンを接続してください。外れていると運転しません。